

2026年4月5日

立教大学国際学術研究交流制度  
2025年度「派遣研究員」報告書

1. 派遣概要

所属・職	観光学部・教授
氏名	大橋 健一
派遣機関名	Institute for Population and Social Research, Mahidol University 所在国：タイ
研究テーマ	Russian-speaking tourism economy in Thailand
派遣期間	2026年2月22日～2026年3月24日（31日間）
研究経費	666,900円

2. 派遣期間中の活動

離日日および帰国日を含め、派遣期間中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。

活動内容記入例）○○に関する調査、○○氏と研究討議、共同研究、講演、視察等

年月日	活動内容
2026年2月22日	離日・バンコク着
2026年2月24日	派遣先機関共同研究者 Sergey Ryazantsev 博士と研究打合せ
2026年2月26日	派遣先機関研究所長 Chalermpol Chamchan 博士・副所長 Dusita Phuengsamran 博士と面会・研究計画説明・研究懇談
2026年2月27日	派遣先機関共同研究者 Sergey Ryazantsev 博士と研究討議 派遣先機関在籍博士課程学生と研究情報交換
2026年3月8日 ～12日	チョンブリー県パッタヤーにおけるロシア系観光エンクレーブに関する現地調査
2026年3月20日	派遣先機関研究所長 Chalermpol Chamchan 博士と面会・今後の研究協力交流について懇談
2026年3月23日	バンコク発
2026年3月24日	帰国
	*その他全期間にわたり資料収集・整理・分析、共同研究者 Sergey Ryazantsev 博士との国際共著論文の内容検討・草稿執筆等をおこなった。

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果、今後の研究の展望、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等を記入してください。

本研究は、グローバルな人の移動におけるオルタナティブな視点の確立を目指す中で派遣先研究機関在籍の共同研究者 Sergey Ryazantsev 博士と共にこれまで検討を重ねてきた「Russian-speaking tourism economy」概念（ロシア語を媒介に構築される観光移動ネットワークとその社会経済システム）の有効性をそのネットワークの一大拠点として近年ますます重要性を高めているタイにおいて実地に調査研究し、さらなる研究の進展を目指すことを目的としたものである。特に 2022 年 2 月以降のグローバルな地政学的状況において、タイは本研究が着目する観光移動ネットワークとその社会経済システムを急速に発達させており、その実態の把握は研究の進展のための重要な作業として位置付けられる。

派遣期間中は、研究課題に関するより具体的でインテンシブな研究討議や成果発表の一環としての国際共著論文の内容検討等を共同研究者と行なったほか、関連する研究課題に取り組む次世代研究者としての派遣先機関在籍の博士課程学生とも研究情報交換を行ない、研究交流を深めることができた。また、タイにおける「Russian-speaking tourism economy」の重要拠点の一つであるチョンブリー県パッタヤーにおいて形成が進む観光エンクレーブ（Thap Praya Soi 12 地区）の実地悉皆調査を実施し、社会経済システム解明のための基礎データとして蓄積することができた。

これらの派遣期間中の研究・交流の成果は、これまでベトナムを中心に議論を構築してきた「Russian-speaking tourism economy」をめぐる研究枠組に対する重要な比較対象事例を追加することとなり、研究のさらなる動的な展開が見込めるものと展望している。

今後も共同研究を通じて派遣先機関とのさらなる研究交流を継続する所存であるが、本学にとってもタイを代表する研究集約型大学であるマヒドン大学は、将来の有力な学術交流連携先の可能性を有していると考えられるため、今回の派遣はそのための重要な下地作りとなるものであったと考えている。



【写真】 上左：派遣先機関研究所長・副所長・共同研究者と 上右：派遣先機関 下左右：パッタヤーにおけるロシア系観光エンクレーブにて